



『もっと！！本野通信』

No.114

諫早市立本野小学校長 永井 洋

ありがとう6年生！！

3日、6年生を送る会が開かれました。お別れの会なのですが、各学年の楽しい出し物や、工夫されたプレゼントで、体育館は和やかな雰囲気になりました。

6年生の登校は、残り9日です。卒業に向けた取り組みが忙しいですが、本野小で過ごした6年をじっくり振り返り、心に留めてほしいと思います。そして、4月からの新たなスタートにチャレンジしてほしいです。



自己決定できる人に。誰か（何か）のせいにはしないということ（小言みたいですがすみません③）

以前、講演会で「人の数だけ人生があり、同じものは2つとなし」という題の話を聞いたことがあります。しかしその方は、3つだけ共通することがある。それは、「上り坂、下り坂、まさかです。」と言われました。何をやってももうまくいく追い風が吹いている時、反対に、何をしてもうまくいかない向かい風が吹く時期、予想すらしていなかったことが起こる時…ということだろうなと思いました。

本野小学校66名の子どもたちも、いずれ社会の一員として活躍し、自身の人生を歩んでいきます。その時には、「自分の力で自分の人生を拓いていく」ことが重要になります。誰かが自分の人生を決めてくれたり、代わってくれたりすることはまずありません。ここで大切な力が、向かい風に対応する力、まさかの時に対応する力などになると思います。そのような力を付ける場所の一つが学校です。

それらの力が、どのようにすれば身に付くのでしょうか。例えば、「宿題を忘れたときに①先生に伝える ②先生に伝えその後の対応策を話す ③忘れ物を減らすための工夫をする」を発達段階に応じて指導し、4年生くらいまでに③の段階にもっていければ、他のいろいろなことにも「自分はどうすればよいのか」と考える力が身に付くはず。また、「友達とトラブルがあったときには①自分にも悪いところはなかったか ②先生や大人の人に相談しよう ③自分から仲直りを提案してみよう」を少しずつ身に付けていければ、「人とのコミュニケーション力やポジティブな働きかけをする力が付く」でしょう。

子どもたちは、インターネットやSNS、通信型ゲームなどを通して、情報や非現実的なことにほぼ毎日のように接しています。目を開けてさえいれば何かしら変化を感じ、何もできていないのに、なんとなくできた（満足した）ような気持ちになっていることが多くないでしょうか？これでは年齢を重ねても「精神的な未熟児」になってしまいます。親が試験勉強をしても学力は付きませんし、お店に走ることが速くなる靴や薬は売っていません。大人が、子どもの代わりにできることは、自分自身としっかりと向き合えるように助言したり、苦しいことがあっても自分の足で進めるように、努力を応援したりすることだと思っています。

誰かが目の前にある壁を壊してくれるのを待っているのは、いつ進めるかは分かりません。乗り越えていくのか、回り道をするのか、自力で壊すのか、方法はいくつか考えられますが、手立てを自分で考え、実践する力は一朝一夕には身に付きません。小さな積み重ねが、将来の大きな力になると信じています。

